

おれんじの屋根

施設長より

大切にしたい

自分(家族、兄弟、子ども)が利用者だったという視点



新年早々、熊本市から虐待防止に関する文書が届いていました。虐待の防止のため、4月から、①従業者への研修実施(義務化)、②虐待防止の対策を検討する虐待防止委員会の設置(義務化)などの対策が強化されるとのことでした。

虐待防止は研修でも特に力を入れて取り組んでいます。虐待はどこ事業所でも起こり得る、もちろん、しょうぶの里でも。“うちでは、虐待はない・起きない・関係がない”といった甘い認識が、虐待の“種”や“芽”を生み育てる土壌となる。“虐待は、いつでもどこでも起きる”という認識が大切だと職員には話をしています。

その話の中では、「自分(家族、兄弟、子ども)が利用者だったという視点を持つ」ことをお願いしています。いわく、今の自分の支援やかかわりはどうなのか？利用者さんは今のしょうぶの里の生活に満足できているか？楽しいか、嫌ではないか？と、自分の支援やかかわり、利用者さんの活動や生活を見ると、どう見えるか？

あるいは、その支援やかかわり、ことばかけなどを、利用者さんが聞いたら、意味が分かったら、本人の親さんやご家族、関係者が聞いたらどう思うか？利用者さんや親さん、家族、関係者を、悲しませたり、失望させたり、憤らせたり、不安な気

持ちにさせたりすることはないか、人権上の問題がないか、と。

こういったことを想像できる力(「想像力」)を持ち、ときどきでもよいので、こういう視点で見たり考えたりすることが、虐待防止にはとても大切だと私は考えています。

何も難しい話ではなく、自分が相手の立場だったとして、①されて・言われてうれしいことをしてあげる、②されて・言われて嫌なことをしない、この2点を大切にすることということでしょうか。

私たちの仕事は、営業の人のように、ノルマがあるわけではなく、製造業の人のように、生産目標があるわけでもない。では、何をめざしているか？それは、利用者さんの笑顔や満足そうな表情、そして、幸福と思える生活や環境を用意すること。

詰まるところ、私たちの仕事は利用者さんを幸福にすること。私たちの仕事のやりがいも、ここにあると思っています。その仕事にやりがいを感じ、利用者さんとのやり取りを楽しみ、利用者さんの日常の何でもないことに喜ぶ。そういうしょうぶの里の職員を見て、うれしさと安堵感を覚えています。

しょうぶの里は、多くの育成会会員の願いと期待、長年の努力によって実現した施設。その願いや期待に応えるためにも、こういったことを大切に、虐待の“種”や“芽”が生まれてこないよう、今後も職員と共に努力していきたいと思っています。



書き遊ぶ

「ぼくの町のお巡りさん」



ゆうゆう会会長の瀬上です。令和4年1月4日に村上副会長と市役所にリサイクル申請に行きました。引き続きピン・缶リサイクルにご協力ください。

十数年前、しょうぶの里のある小島町の交番に名物駐在Mさんがいました。小島小の児童が『わたしのまちのおまわりさん』作文コンクール(読売新聞主催)で入賞したため一躍有名になりました。

Mさんは西郷隆盛似の目がキョロっとして体格も大きく愛嬌のある方でした。子ども達の登下校を毎日見守り続け、住民の家にも気軽に入り込んで話し、気さくで地域の人気者でした。

夜も地域を巡回し、本人曰く、ここの不良達には「私はいつも見ているからな」と無言の圧力をかけ

ていたそうです。

小島小にも自由に入ってきて「仲良くしているか？」「いじめはないか？」と声かけされていました。とても小島町が気に入って警部補で退職された後も放課後勉強を教えに来られました。

児童・生徒がいじめで自殺したニュースを見るたびにMさんのような方があちこちにいらっしゃったかなと思わずにはられません。

あまりにも評判が良すぎて後任の方はそれはそれは苦勞されたそうです。



残念...

施設のイベントが次々と中止に(>_<)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、予定されていた初詣や書初め大会などが中止・延期を余儀なくされました。

またご家族との外出・外泊も中止となり、オンライン面会へとなりました。

昨年暮れには、感染者数も落ち着いてきたのかと思ったのもつかの間、爆発的な増え方に恐怖すら覚えます。

感染症対策をしっかりと乗り切りましょう！



アールブリュット展覧会 始まりました！

令和4年1月25日より、熊本県立美術館本館第一展示室にて《生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.7》が開催されます。

しょうぶの里からは内野貴信さん、岡井紀代子さん、寺本澄子さん、濱崎文明さん、本田美奈子さんの5人の利用者さんの作品が展示されています。グッズ販売もありますので、ぜひ足を運んでみてください。

この展覧会の開会式に出展者の利用者さんと出席する予定でしたが、こちらも新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって参加することができませんでした...

給食室より

2月

イベントメニュー

- 2月 2日 誕生会
- 2月 3日 節分メニュー
- 2月 14日 リクエストメニュー
バレンタインおやつ
- 2月 25日 リクエストメニュー



節分と果物



節分には『福を内、鬼は外』と唱えて豆まきをし、恵方巻を食べます。晩白柚、デコポン、そして大粒のイチゴも店頭で数多く並び時期となり、とても楽しい季節の到来です。

晩白柚の食感とさっぱりとした味覚、デコポンの絶妙な甘味、思い出だけで微笑んでしまいます。...が、毎年1〜2度、デコポンの極上酸っぱさに大当たりして目を白黒させています。

ところで農水省統計を見ると、晩白柚とデコポンは果物、イチゴは野菜に分類されています。

栄養士 齋藤憲子

医務室より

新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)の大流行

年明けより日本各地で新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)の感染者数が増え始め、第6波に入ったとニュースでも言われています。感染力が今までよりも強い、感染力は強いが重症化しにくい、等々言われていますが、まだまだ不透明なことの多いウイルス株です。

熊本県でも608人(1月18日現在)という爆発的な感染者数の増加で、まん延防止等重点措置の適用要請等が行われました。

しょうぶの里では全居室、食堂、喫茶室のアルコール消毒を午前、午後と1日に2回行っています。それに合わせて検温も行っています。当面は外出・外泊を中止し感染予防対策を徹底していききたいと思います。



健康診断について

2月15日に本年度2回目の健康診断を予定しています。(昨年度はこの2回目の健康診断は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となっています。今年度も実施できるか現段階では分からない状況ですが...)

健康診断は病気の早期発見にとっても重要です。また自分自身の体の状態を知ることでもあります。異常が指摘されたときは、積極的に受診をしてください。

看護師 齋藤

《2月の行事予定》

- ☆ 1日(火) 訪問リハビリ
- ☆ 2日(水) 誕生会
- ☆ 3日(木) 訪問歯科
- ☆ 7日(月) 職員会議、給食委員会
- ☆ 8日(火) 訪問リハビリ
- ☆ 10日(木) 訪問歯科
- ☆ 14日(月) バレンタインデー
- ☆ 15日(火) 健康診断、訪問リハビリ
- ☆ 17日(木) 訪問歯科
- ☆ 21日(月) 研修会
- ☆ 22日(火) 訪問リハビリ

※予定ですので変更になることがあります。ご了承ください。

～編集後記～

今年も年明けからの話題はやはり新型コロナウイルス感染症。オミクロン株の出現で感染者数も各地で爆発的に増えています。熊本も一時は感染者数「0」の日が続いて、このまま落ち着いていくのかと思っていた矢先にこの爆発的な増加...まだまだ油断せず感染予防対策の徹底をしないといけませんね。

このマスク生活の中、ふと口紅つけたのはいつだったかなあと。もう思い出せないくらいです...(>_<)

～～第57号～～

令和4年1月25日発行
発行元 しょうぶの里
熊本市西区小島9丁目14-58
TEL (096) 311-4588

